

ガッコ親父の

ボール遊び好きのお姫様は王様のマツジローから、美しいボールを誕生日にプレゼントされた。お姫様はピカピカのボールに心を奪われてしまい、日が暮れるまでボールで遊んだ。寝る前にはボールを気が済むまで布で磨き、胸に抱いて寝た。

ある日、お城の広い中庭でボールを蹴ると、予想をこえて勢いよく転がり、池に落ちてしまった。池は危険だから絶対入ってはいけないと、侍従から厳しく注意されていたので、お姫様は真っ青にどうしよう。

思案に暮れるお姫様の前に一匹の醜いカエルが現れた。「お姫様、お姫様。私にお任せください」とお姫様を見上げて言った。「そのかわりにお願いがあるのですが」と続けた。お姫様は頷き、約束を交わしたのだった。

ボールが戻ってきたお姫様はひと安心。その夜、家族揃っての晩餐の最中、扉の外から「お姫様、お姫様。昼間のカエルですが、私を中に入れてくださいな」と声が聞こえた。まさか食事時にと、お姫様は驚いた。

王様は事情を聞くと、「交わした約束は決して破ってはならない」と、お姫様にカエルを中に入れるように言った。「他人から施された好意には、恩を倍にして返さなくてはいけない」が、厳格な王様の口癖だった。王様はカエルのためにお姫様の隣に席を用意させ、カエルはゲコゲコと気味の悪い喜び声をあげて、ご馳走をたいらげた。

「実はお姫様にももう一つお願いがあるんです」とカエルは言った。食事も終わり、もう帰ってもらおうと思っていたお姫様は目を白黒させた。「ここでは話にくいので、お姫様のお部屋に連れて行ってもらえませんか？」とカエルはお願いした。

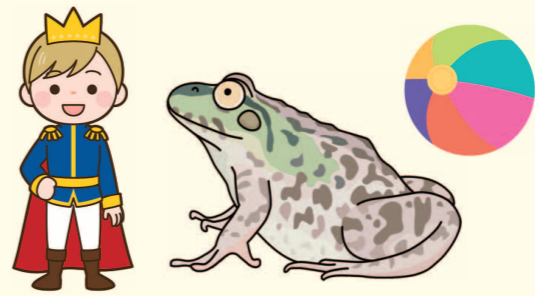
厚かまし過ぎるのではとお姫様は思った。しかし、王様から恩返しは倍返しだと教えられていたので、仕方なくカエルを部屋に連れて行った。部屋に着くと、カエルは頬に口づけしてほしいと言った。「もう、これでおしまいですから、ゲコゲコ」と懇願され、「わかりました」とカエルの頬に口づけをしたのだった。

すると、煙がモクモクと立ち上がってカエルが姿を消し、気高い風貌の青年が姿を現したのだった。その青年は「驚かせて申し訳ありません。私はある国の王子なのですが、実は悪い魔法にかかってカエルにされていたのです。美しいお姫様に口づけをされると魔法が解けると言われていたので、この機会を待っていました。」

「あなたはお父様の言われたことや私の約束を守り、醜いカエル姿のほっぺに口づけをしてくださいました。誠実で美しい心に感謝します」とカエルは告げた。お姫様はこの出来事を王様に話した。

やがてお姫様と王子は結婚をすることになった。マツジロー王はとっておきのお酒『しまっちゅ伝蔵』を出してきて祝宴を開いた。

「王子や、もう故郷の国にカエルなんて言わないで、ずっとこの国にいておくれ、なんちゃって」と、王様のダジャレも絶好調だった。



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎
喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



900ml (25%) 1800ml (25%) 1800ml (25%)

喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



喜界町
鹿児島県

25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



「カエル」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。